エディトリアル

地域医療を豊かにする「信頼」と「連携」

article number e26_013, (2026)　　DOI　10.60261/chiikiigaku.40.11_e26_013

大海佳子（編集委員）
地域医療振興協会 地域看護介護部長

持続的に地域医療を提供するためには，住民とどう関わるのか，行政や関係機関とどうつながるのか，そして自身のキャリア形成をどう構築していくかという視点が重要である. 掲載された３編からこれらの示唆が得られるだろう.

平川仁尚論文は，信頼関係を基盤とした継続的な関わりと関係者との連携による支援体制の構築が，高齢者の社会的孤立を防ぐうえで重要であることを示している[1]．住民個々に合った「関わりの程よさ」を考える機会にしたい.

今回は 2026 年６月に開催された第 19 回へき地・地域医療学会で行われたシンポジウムの特別報告２編が掲載された．どちらも地域医療に携わる医師のキャリア形成をテーマにしたものである.

井上大輔論文は，へき地・地域医療の原点や本質，課題を学ぶためのシンポジウムから，関係者や住民との信頼と自分が地域に支えられているという謙虚な姿勢を確認した．お互い様の関係づくりや，地域に溶け込むことを通して多彩な活動へとつなげていることが紹介され，地域医療は住民・行政・関係機関との信頼関係のうえに成り立つことを述べている[2].

貝原正樹論文は, 地域医療従事義務を担う医師のキャリア形成支援をテーマに, 大学と４県の現状を紹介している．地域勤務を制約ではなく成長の機会と転換していく機運の醸成が重要と述べている[3].

より良い医療を提供するためには，他者と関係をつくり，協働する人間力が不可欠である．他者意識と共感などの暗黙裡は実践の中で醸成されるものであり，地域医療はその経験値を高める最適な場所ではないだろうか．それを自身のキャリア形成の一部と捉えると地域医療がとても魅力的に感じられる.

Reference

1) 平川仁尚：都市・農村混在地域における支援が届きにくい高齢者の社会的孤立の特徴 －民生委員および自治体職員へのフォーカスグループインタビュー－．月刊地域医学 2026；40(11)：e26_014.
2) 井上大輔：第 19 回 へき地・地域医療学会　メインシンポジウム１「地域医療，歴史に学ぶ」．月刊地域医学 2026；40(11)：e26_015.
3) 貝原正樹：第 19 回 へき地・地域医療学会　メインシンポジウム２「地域医療従事義務を担う医師のキャリア形成支援」．月刊地域医学 2026；40(11)：e26_016.